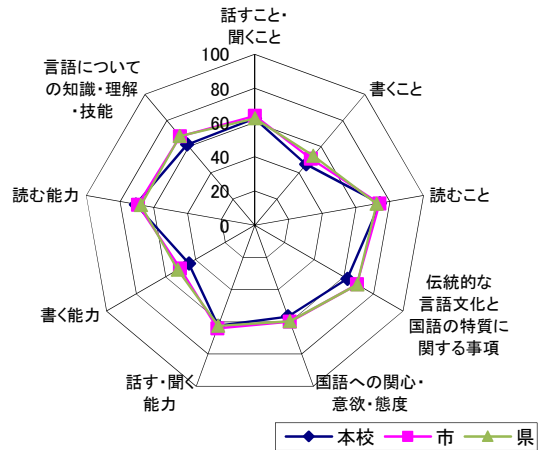


宇都宮市立東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.4	64.0	62.5
	書くこと	46.6	50.9	53.1
	読むこと	74.2	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.4	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	56.6	59.9	59.7
	話す・聞く能力	62.4	64.0	62.5
	書く能力	44.5	50.4	52.0
	読む能力	70.6	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	61.7	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

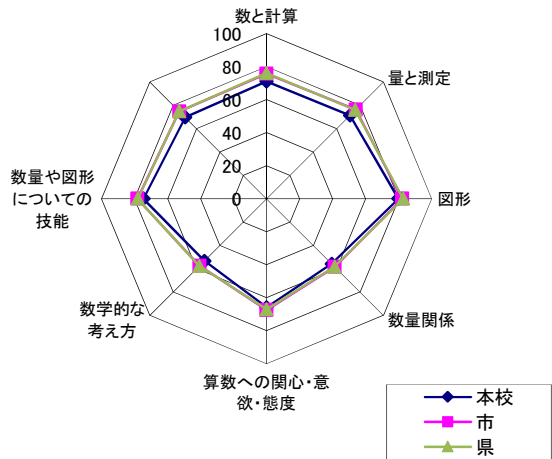
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は62.4%と、市より1.6ポイント下回っている。 ○「大事なことを落とさないように聞き取ること」や「話し方の工夫に注意して聞き取ること」については、市の平均とほぼ同程度で、よい話し方や聞き方についての理解ができているといえる。 ●「話題に沿った意見と理由を考えて話すこと」や「聞きたいことをもとにインタビューの質問を考えること」については、市の平均より下回っている。条件に合った話し方や、理由を付け加えて話すことについては、習得が不十分と言える。	・国語の授業だけでなく、学級活動など学校生活の様々な場面を通して話し合い活動の機会を多く設定し、話題に沿った意見が言えるようにするとともに、自分の意見の理由を適切に話すことができるよう、段階を追って指導を重ねていく。 ・総合的な学習の時間など、国語の学習に限らず、相手に質問をする場を意図的に設定し、相手の話を受けて質問の内容が考えられるよう、継続して指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は市の平均より4.3ポイント下回った。 ○「書くこととするものの中心を明確にして書くこと」については、個人差はあるものの、自分の意見を明確に書くことができる児童が増えてきている。 ●「指定された長さで文章を書くこと」「二段落構成で文章を書くこと」「理由や事例を挙げて文章を書くこと」については、市の平均より下回っており、条件に沿って書くことに課題が見られる。また、無回答の児童も27.3%おり、自分の考えを書くことに苦手意識をもつ児童がいることが分かる。	・自信をもって作文が書けるよう、日記や短作文を書く機会を多く設ける。さらに、児童同士で作文を見合う場を設定し、学び合い高め合う指導を継続していく。 ・条件に合った書き方ができるよう、国語の授業の中で、長さを指定した作文を書いたり、段落を意識して作文を書いたりする機会を意図的に設定する。
読むこと	平均正答率は市の平均より上回っている。 ○物語文の「場面の様子を読み取ること」や「登場人物の気持ちを読み取ること」については、市の平均より大きく上回っており、物語の内容を読み取る力がついてきていることが分かる。 ●説明文の「段落の役割を理解して文章の内容を的確に読み取ること」については、市の平均を下回り、説明文における内容の読み取りについて課題が見られた。	・説明文を読むときには、段落と段落との関係を考えながら読むようにしたり、それぞれの段落がどのような役割を果たしているかを構成図などに表したりする活動を意図的にを行い、説明文の読み取り方についての指導を強化する。 ・引き続き読書活動に力を入れ、物語文に多く触れるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市の平均より6.1ポイント下回った。 ○「国語辞典に載っている言葉の順列」については、正答率が市の平均より上回っており、国語辞典の基本的な使い方について習得できているといえる。 ●「文の構成（主語・述語）の理解」については、正答率が33.3%と低い。また、3学年で学習した漢字の読み書きについても、習得状況に課題が見られる。	・国語の学習において、主語・述語を意識した短作文指導を行うなど、意図的に文章を書く機会を増やしていく。また、漢字の読み書きについても継続的に指導を行い、漢字の読み書きの定着を図る。

宇都宮市立東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.1	75.8	76.1
	量と測定	71.4	76.5	76.0
	図形	79.8	82.1	82.7
	数量関係	55.8	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	65.8	67.4	67.0
	数学的な考え方	53.3	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	74.6	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	69.7	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

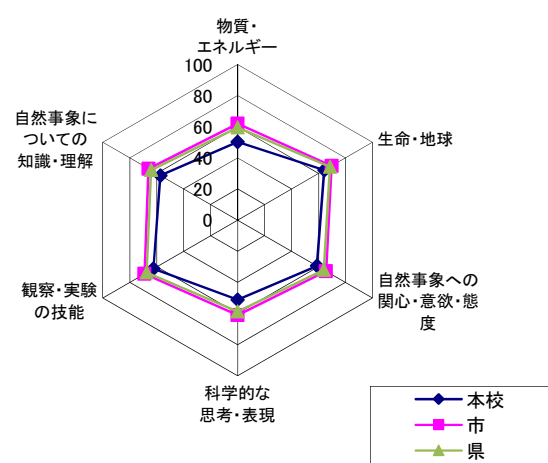
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を4.7ポイント下回った。 ○「2けた×2けた＝4けたの計算」は、市の平均を9ポイント上回った。 ●「3けた－3けた＝3けたの波及的繰り下がりがある計算」は、市の平均を16ポイント下回った。「かけ算の筆算に出てくる数の意味を答える」の正答率は12.1%で、市の平均を18ポイント下回った。また、計算の仕方や理由を説明する問題においても正答率が低かった。	基本的な計算の技能の反復練習に加えて、繰り下がりや筆算の仕組みを理解し説明する活動を取り入れるとともに、工夫して計算することによるよさが味わえる活動を取り入れる。また、文章題の場面の状況を図などに書いて正しく理解するとともに、導き出した答えの意味することを言葉で表現する機会を多く取り入れる。
量と測定	平均正答率は、市の平均を5.1ポイント下回った。 ○「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める」の正答率は、市の平均を2.8ポイント上回った。 ●「はかりの目盛りの読み方」の正答率は、市の平均を15.8ポイント下回った。「身近にあるものの重さの単位」の正答率は、市の平均を7.6ポイント下回った。	時刻と時間の問題は比較的良好にできているので、はかりの目盛りについても、大きい目盛りから順に読んでいくことや、1目盛りがいくつを表しているかを考えることの復習をする。また、生活と関連させながら重さの感覚をはじめとした量感が豊かにできるような活動を取り入れる。
図形	平均正答率は、市の平均を2.3ポイント下回った。 ○「円の直径」について正答率は、87.9%で市の正答率と同程度であった。 ●「球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める」の正答率は63.6%で、市の平均を4.3ポイント下回った。	円の直径、半径の意味や性質を確認するとともに、図の中でその性質を活用できるような問題に触れる機会を、朝の学習や家庭学習に取り入れていく。また、必要に応じ、自分の考えたことを図の中で線を引いてみるなどし、視覚的にも確認できるような活動を取り入れる。
数量関係	平均正答率は、市の平均を2.6ポイント下回った。 ○「棒グラフを正しく読み取る」の正答率は75.8%で、市の平均を9ポイント上回った。 ●「□を使って減法の式に表すことができる」の正答率は54.5%で、市の平均を16.6ポイント下回った。また「棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明する」の正答率21.2%と低かった。	未知数を□の式で表すことの意味の理解が不十分であることが考えられる。□を使う場面について多くふれさせていき、その便利さについて気づいていけるようにしていきたい。また、表をグラフに表すときの注意点をはっきりさせるとともに、気づいたことや理由を言葉で表すときのポイントを確認させたい。

宇都宮市立東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	50.3	61.9	59.4
	生命・地球	64.2	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	58.8	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	51.1	61.0	58.8
	観察・実験の技能	62.4	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	57.3	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を11.6ポイント下回った。 ○「実験の結果からわかるゼムクリップの磁性についてしてきする」正答率は市の平均を9.2ポイント上回った。単元に関わらず実験結果からその様子や変化を推測する問題に関しては、市の平均を若干上回るものがある。 ●物質・エネルギーの分野においては、市の平均を下回るものが多く、記述式の問題では、その傾向が強く見られる。特に「電気の通り道」の問題では、文の表現の仕方が分からずに点数に繋がらないように推測される。	単元の始まりや、実験の前など、普段の生活や既習の学習内容と関連付けて考えらるよう時間を取り、予想や仮説を根拠立てて実験を行うようにする。また、実験では、一人一人が関り、理解を深められるように指導する。学習のまとめでは、キーワードを用いながら考察などを自分の言葉で文章に表せるよう、他教科と連携しながら支援をしていく。
生命・地球	平均正答率は市の平均を5.6ポイント下回った。 ○太陽と地面のようすの単元の太陽を見るときに使う道具を答える問題では正答率が97%と非常に高い。また、植物の育ち方の単元のホウセンカの種のまき方を答える問題では、正答率が市の平均を17.5ポイント上回った。 ●身近な自然のかんさつとこん虫のからだのつくりの単元では、すべての問題で市の平均よりも正答率が下回った。しかし、ダンゴムシの見つけた場所を答える問題では正答率が90%を上回っている。	自然の生き物の観察では、昆虫が好きな児童も多いことから、日常の経験や体験を想起させながら、観察する中で、様子や成長の違いを確認しながら記録するように指導する。昆虫に興味があることを利点に、さらに探求できるよう、虫眼鏡や方位磁針などの器具の使い方を適切に身に付けられるように指導する。

宇都宮市立東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の宿題をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問では、市の肯定割合と同程度か、やや上回っている。家庭学習の習慣が身に付きつつあることが伺える。

○「学校の授業時間以外にふだん1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。」の設問では、市の読書時間の平均よりも上回り、家庭でも積極的に読書を行っている様子がうかがえる。さらに、「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている。」の設問では、市の肯定割合よりも22.2ポイントも上回り、また、「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の設問でも市の肯定割合を上回っていることから、子どもたちが積極的に課題解決の手段として本を活用している実態が伺える。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の設問では、市の肯定割合よりも14ポイント上回り、さらに「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問でも、市の肯定割合よりも4.3ポイント上回っていることから、子どもたちが授業中、友達と積極的に意見交換しながら学習を進めている様子が伺える。これらの児童のよさを生かしながら今後とも授業研究を行い、学習指導の充実を図っていきたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である。」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」「学級活動の時間に友達同士で話し合ってクラスの決まりなどを決めていると思う。」の設問では、いずれも市の肯定割合を上回っていることから、普段から自分の意見を安心して述べられるクラスの雰囲気が醸成されていることが伺える。

○「自分にはよいところがあると思う。」「蒸すかしいことでも失敗を恐れないで挑戦している。」「自分の行動や発言に自信をもっている。」「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」「自分がもっている能力を十分に発揮したい。」の設問では、いずれも市の肯定割合を上回り、子どもたちの自己肯定感が高いことが伺える。

●「勉強していて面白い楽しいと思うことがある。」「勉強していて不思議だななぜだろうと感ずることがある。」「むずかしい問題に出あうとよりやる気が出る。」「学習して身に付けたことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」「学習に対して自分から進んで取り組んでいる。」の設問では、いずれも市の肯定割合を下回っている。分かる授業を実践して学習意欲の向上を図るとともに、キャリア教育の視点から子どもたちが将来の自分の姿と今現在の学習がどのようにつながっていくのかをイメージできるよう、学習指導を改善していくとともに、生涯学習の視点から子どもたちが将来にわたり自分が実現したい理想の姿に自分自身の力で向かっていけるような心情的醸成を図ってきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の設問では、市の平均を8ポイント下回り、子どもたちが書くことに苦手意識をもっていることがうかがえる。上記のグループの仲間等と積極的に意見を交換できるという子どもたちのよさを生かしながら、書くことを意識した授業実践を通して、苦手意識を克服してきたい。

●「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」の設問では、市の肯定割合よりも下回った。友達の話聞く時の観点を具体的に示していくなどして話し合いが単なる一方的な意見を述べる場にならないような指導の工夫を図ってきたい。

●「次の教科などの学習は好きですか。」の設問では、社会科・理科の肯定割合が市の平均よりも大きく下回るとともに、社会・理科分野の事象への興味・関心も低くなっている。分かる授業の実践を通して社会科・理科の魅力を子どもたちに伝えていきたい。